

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079200202		
法人名	有限会社 ヒューマンケア		
事業所名	グループホーム 小春の家		
所在地	〒822-1402 福岡県田川郡香春町大字鏡山268番地	0947-32-7889	
自己評価作成日	平成27年04月17日	評価結果確定日	平成27年05月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの季節に旬の食材を用いた食事を提供し、利用者の希望と季節に合わせ、桜やチューリップ、コスモスなどの見学、バーベキューや餅つきなど、その季節でしか見る事や体験する事の出来ない事を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田川市郊外の、緑に囲まれた自然環境の中に、2階建て2ユニットのグループホーム「小春の家」がある。広々とした敷地の中にお堂を建て、天気の良い日は、利用者と職員がお参りし、毎日の散歩コースになっている。4月に管理者が交代し、気持ち新たに職員が一丸となって、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの提供に取り組んでいる。提携医療機関による隔週ごとの往診体制と、かかりつけ医が協力し、介護職員のきめ細かな観察で、利用者の健康管理は充実し、家族の安心に繋がっている。また、利用者が楽しみにしている食事は、旬の食材を使い、利用者の嗜好を聞きながら、調理自慢の職員が愛情込めて料理し、職員の見守りと解除の中で、楽しそうに食べて完食し、利用者の健康の源になっている「グループホーム 小春の家」である。
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年04月24日		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9.10.21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32.33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念があり、管理者や職員が理念を把握し、日々の業務で実践している。	ホームが目指す介護サービスのあり方を明示した理念を玄関に掲示し、ミーティング等の機会に理念について話し合う等、理念の共有に努めている。職員は理念の意義を理解し、地域の中で利用者の人格を守り、一人ひとりに合わせた介護の実践に取り組んでいる。	職員間で更なる理念の理解、共有を図るため、理念の唱和や理念について話し合い、確認する機会を積極的に行う事を期待したい。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の保育園や町内外でボランティア活動をされている方々を招き、楽器演奏や歌などを通じて、交流の場を作っている。	町内会に加入し、地域の行事の情報があると、参加できそうな利用者と一緒に参加している。ボランティアによる慰問の受け入れや、近所の子供達が遊びに訪れる等、日常的な交流がある。また、12月に行われる餅つきには、近所の方の参加もあり、地域の一員として交流が深まっている。	町内の保育園児との交流の復活や、地域行事への積極的な参加、餅つき以外にも地域住民に立ち寄ってもらえるような取り組みを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々が立ち寄る機会はまだ多くなく、認知症の方々に対する理解は生かせていない。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、その中で話し合いや報告をして、参加者から意見を頂、サービス向上に生かしている。	運営推進会議には、他事業所の代表、地域包括支援センター職員、香春町役場福祉課の参加を得て開催し、ホームの行事や取り組み、利用者の状況報告を行っている。参加者からは、質問や地域の情報提供を受け、出された意見は、ホーム運営や業務改善に反映出来るよう努力している。	運営推進会議の年6回の開催と、委員の増員に仕組み、会議の欠席者や家族、職員にも会議の内容を伝えるための詳細な議事録の作成が望まれる。
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情・取り組み内容を定期的に伝える事で、協力関係を築いている。	管理者は、ホームの利用状況や困難事例、事故等について行政に相談、報告を行い、連携を図っている。運営推進会議に行政や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの実情を理解してもらい、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや勉強会を定期的に行い、学習・理解する事で、介護に取り組んでいる。	ミーティングや勉強会の中で、資料を使って身体拘束について学び、職員一人ひとりが理解している。利用者の穏やかな普通の暮らしを守る介護のあり方について話し合い、禁止行為の事例等を検証し、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について、ミーティングや勉強会で理解する場を作り、早期発見・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について、勉強会で学ぶ場を設け、現場で活用できるように支援している。	権利擁護に関する外部研修を受講した職員による報告や、個々の研修により、制度について学んでいる。現在、1名制度を活用している事から、成年後見人とのやり取りの中で実際に学ぶ機会がある。制度に関する資料やパンフレットを用意し、利用者が制度を必要とする時には、家族や関係者と話し合い、制度の内容の説明や申請機関へ橋渡し出来る支援体制を整えている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は家族や利用者に納得いただくよう説明し、理解を得ている。			
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事・面会・家族会の際に対話できる機会を作り、家族や利用者の意見を運営に取り入れている。	職員は日頃の生活の中で、利用者の要望を聞き取り、家族の面会時や行事参加の時に、家族の意見や要望を聴いている。出された意見や要望は、出来る事から速やかに運営に反映させている。また、ホームの行事、病院受診、暮らしぶりを記した「介護経過の要約」を写真を載せて毎月送付し、家族の理解、信頼に繋げている。	家族が一同に会し、話し合える家族会の復活を図り、より一層の信頼関係を築く取り組みを期待したい。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやミーティングの中で、職員の意見を出す機会を設け、反映させている。	月に1回、その日の出勤者によるミーティングを開催している。毎日の申し送り時にも、職員の意見や要望を出し合い、出された案件が出来るだけ迅速に解決出来るように取り組んでいる。また、会議の中で、「介護記録の書き方」や「高齢者虐待について」等の勉強会を行っている。	ミーティングで何が話されたかを詳細に記録し(会議録)、出席できなかった職員に周知が図れるような取り組みを期待したい。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持ち、やりがいを感じられる、働きやすい職場作りに努めている。			
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用は、人柄や考え方を優先しており、性別や年齢を採用基準にはしていない。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する想いを優先している。採用後は、職員のスキルアップのため、外部研修受講や資格取得を奨励し、介護技術の向上を目指している。また、休憩場所を整備し、休憩時間や希望休に配慮して、働きやすい職場環境を目指している。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年一度、人権啓発活動のセミナーへ参加し、勉強会やミーティングの場で学ぶ場を作り、啓発活動に取り組んでいる。	毎年、行政主催の人権啓発セミナーに、管理者を始め、数名の職員が参加し、利用者の人権を尊重する介護のあり方を学び、利用者が、安心して暮らせる介護の実践に向けて取り組んでいる。また、家族や関係者に、利用者の人権を守る介護について説明を行う等、啓発活動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、勉強会や研修の機会を設け、サービス向上に努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年一度、町内の施設へ盆踊りに参加し、交流の場はあるが、ネットワーク作りは出来ていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者や家族の話聞く機会を設け、不安を取り除き、安心した生活を送る事が出来る様、ケアに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時に家族や本人の意見・要望を聞き、関係作りに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人に合わせたサービスの提供を行う上で、当事業所に対応できない場合、他のサービスを利用する事で対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の目線で考え、職員と利用者が支えあっている関係作りに努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に、本人を支援できる様話し合い、良い関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と交流があった人との関係が継続出来る様に、話を聞きながら支援を行っている。	入居時に利用者や家族から、利用者の親しい人や行きつけの店等を聞き取り、利用者が、会いたい人や行きたい所に出かけて行けるように支援し、利用者が築いてきた人間関係や地域との関わりが継続できるように取り組んでいる。地域からの入居者が多いため、馴染みのスーパーへ出かける等支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が交流出来る様に、レクリエーションや会話の機会を設け、スタッフが間に入り、関係作りに努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の関係作りに関しては解約時に説明を行っているが、相談や交流は出来ていない。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者毎の意見・要望を聞き、困難な際は、本人に合った事を家族や関係者と共に検討している。	職員は利用者との日常会話の中から思いや意向を聞き取り、家族や関係者と相談し、実現に向けて取り組んでいる。また、意向表出の困難な利用者に対しては、職員は利用者のその時の表情や、声掛けに傾く等の仕草を見て、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者毎の生活歴や馴染みの暮らし方を大切に、サービス経過は記録に残して職員が把握出来る様、努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者毎の一日の状態変化は、朝・夕の申し送り等で伝え、記録を行い、全職員が把握している。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一度、ミーティングを行い、職員全員で意見を出し合い、介護計画を作成している。	利用者や家族の意見や要望を聞き取り、毎月行うミーティングや、毎日の申し送り時に職員間で話し合い、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。介護計画を基に、ケアチェック表で毎日チェックを行い、評価をしながら、利用者の状態に合わせ、現状に即した介護計画の作成に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月に一度、担当者会議を開催し、状態の変化や今後の目標について話し合っている。また、各時間の申し送りの時に、職員間で情報交換を行っている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週一回の訪問看護を利用し、看護から見た状態の変化を申し送りで報告し、様々な視点から観察を行い、サービスの向上に努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員の方に来て頂き、利用者とのコミュニケーションを図る場を設けている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人や家族に希望を伺い、希望に合った医療機関の利用を心掛けている。当事業所にも協力医療機関内科医がいる。	入居時に利用者や家族と話し合い、利用者の希望するかかりつけ医や、往診体制が整っている協力医療機関を選択してもらっている。現在はほとんどの利用者が月に2回の往診を受けているが、入居前からのかかりつけ医や他科受診については、ホーム職員が同行し、結果は家族に随時報告し、情報の共有を図っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師に訪問して頂き、利用者の日々の状態を報告・相談し、支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者・家族が安心出来る様に病院関係者と連携し、早期に退院出来る様支援している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、重度化や終末期について十分説明し、家族や関係者の協力の下話し合い、支援出来る様に取り組んでいる。	契約時に、「看取りの指針」を基にホームで出来る支援について、利用者、家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と段階的に話し合い、主治医も交えて今後の介護方針を確認し、利用者が安心して暮らせる環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での応急手当等の訓練は、ミーティング等で話し合い、行っているが、訓練は行えていない。消防署主催の訓練に参加しているが、全員ではない。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回、避難訓練を実施しており、その内1回は消防の方にご協力を頂いているが、地域の方の協力体制は整えていない。	例年は年2回の避難訓練を実施し、うち1回は消防署の協力と指導を得ているが、昨年は管理者の交代や職員の退職等が重なり、実施されていない。飲料水や非常食の備蓄に取り組み、非常災害時に備えている。	年2回の避難訓練の実施と消防署の指導を受け、特に2階の利用者の避難経路、避難場所の確認を行う事と、地域住民の協力体制を整える事を期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせた方法で声掛けを行う様心掛け、他者に聞かれたくない事は小声で声掛けを行う等、プライバシーに配慮し対応している。	職員は、利用者のこれまでの生活環境や習慣を把握し、その人に合わせた声掛けや対応で、プライドや羞恥心に配慮した介護を実践し、尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。また、利用者の写真の掲載や、個人情報の記録の保管等、個人情報の取り扱いにも注意している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意見に耳を傾け、自分で意思決定が出来る様に話し合いの場を設け、支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	主に利用者のペースに合わせて支援しているが、時折職員の都合で行えていない事もある。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一ヶ月に一回、理容師の方に来て頂き、散髪や髭剃りを行っている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見を取り入れ、一人ひとりに合わせた食事方法で、配膳や準備を行っている。	食事は利用者の一番の楽しみであり、職員が利用者の嗜好を聞き取り、旬の食材を使って、交代で手作りの美味しい食事を提供している。食事の介助も、介助をすることで食べるきっかけを作り、その後利用者自身で食べてもらうようにする等工夫している。また、利用者の状態に合わせ、刻み食等形態を変えて提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算を行い、利用者の状態に合わせて、普通食や刻み食を提供している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に声掛け・誘導を行い、全員が口腔ケアを行っている。義歯の洗浄は、一日おきに行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時の状態を記録し、パターンを把握し、定時に声掛けや誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。	職員は、排泄チェック表をつける事で、利用者の習慣や排泄パターンをある程度把握し、出来るだけその人に合わせた声掛けや誘導を行い、失敗の少ない排泄の支援に取り組んでいる。紙パンツにパットの方が、布パンツにパットに改善する等、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やラジオ体操、歩行訓練などの運動に力を入れ、自然排便につながるよう取り組んでいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者毎に希望を聞き、入浴して頂くが、時折職員の都合で決めている事もある。	基本的には一日おきの入浴になっている。一人で入浴される方は見守りの中で入ってもらい、湯温についても利用者の希望を聴いて、入浴の順番を考える等、それぞれの思いを大切にされた入浴の支援に取り組んでいる。入浴を拒まれる方に対しては、「綺麗にしましょうか」等、言い方を変える等して声掛けを行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に応じて過ごして頂ける様、寛げる場を作り、支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者毎の処方箋をお薬手帳に挟み、全職員が症状の変化などを把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や外出、施設内でのレクリエーションやゲーム等を行い、気分転換に努めている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	単独での外出は少ないが、利用者全員で外出している。また、希望される方は家族との外出も行っている。	月に1回は、到津の森公園や英彦山ドライブ、大任道の駅等、お弁当やおやつを持って外出し、利用者の気分転換に努めている。また、家族と観劇に出かける等、家族の協力を得て、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度は所持される方が居られ、外出の際には使用出来る様支援している。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される際には、自由に利用して頂いている。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った壁紙を利用者と一緒に制作し、居心地の良い、楽しい空間を作っている。	掃除を徹底して行い、清潔な環境作りに力を入れている。2ヶ月毎に職員に担当してもらい季節の創作を行い、季節感のある室内作りに取り組んでいる。窓際には畳のスペースがあり、家庭的な雰囲気の中、利用者がソファに腰掛けて将棋を楽しんだり、皆で体操をしたりしてゆっくりと寛いでいる。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で寛いで、思い思いに過ごせる様、ソファや遊具を設置している。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に、本人の使い慣れた物を持って来て頂き、居心地良く過ごせる様、工夫している。	利用者の馴染みの家具や布団、大切な物等を持ち込んでもらい、利用者が安心して、穏やかに暮らせるように配慮している。また、掃除を頻繁に行う事で、清潔な居室を心掛け、利用者が気持ちよく過ごせる環境作りに取り組んでいる。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の段差を少なくし、手摺を設置し、自己で可能な事は職員付き添いの元、自己にて行って頂き、安全で安心な生活が送れる様に工夫している。		